

特異な問題行動としては、嘔吐と異尿が随意にできることです。寂しい・悔しいと感じたり周囲の注意が自分に向いていないと知ると、嘔吐や異尿(異糞)を繰り返して周囲の注意をひこうとします。周囲が慌てて自分のために対応してくれるのが嬉しいようです。慌てず何もなかったようにさりげなく処理することが再発を防ぐためには効果的でした。6年生になってからはかなりすくなくなりましたが、学期に1~2回ほどありました。3~5年生では頻度が高かったようです。担当教師が出張で留守だったり、他の児童の介護(導尿等)で教室を離れてしばらく姿が見えなかったりすると、填補の教師が入っていても、その行動が表れました。

悔しい時の自傷(手首かみ)やつまらないときの傷いじりによる化膿もよく見られます。たくさんの人に注目されていることを好み、その中では忘れているようです。しかし、再び一人でいる場面を作ると傷いじりや自傷が再発します。寂しさや悔しさを感じないように、こまめに言葉掛けをしてコミュニケーションがとれるようにしています。また、傷いじりなどが身たれた時は、止めさせるのではなく、違うことに関心を持たせるようにしています。歌を歌ったり、面白い顔をして喜ばせたりしてしながら対応しています。外遊び(ブランコ・自転車・追いかけっこ)も効果的でした。

〈自傷〉思いが通らない時に床にゴンゴンと後頭部を打ち付けることがある→「そんなことしてもダメだよ」「ことばで言っ  
てね」などと諭すと、ふと我に返り落ち着けることが多い。一度メンタル的に崩れてしまっても、立ちなるのがとても早  
くなってきている。

〈他傷〉イライラして周囲のこの顔をひっかく、噛むなど。→本人が「悪いことをしてしまった」という事を一番よくわかって  
いるので、「どうしたの?」と諭したり、叱った後に、「~ちゃん痛いよ」と友達のことに関心を向けるさせると、必死に  
「ごめんなさい」と抱きついて謝っている。

〈こだわり〉触感を味わう物や、音のするおもちゃ、友達の写真カード、くつ下に物を入れて遊んだり、ツバこねなどその  
時々の周囲の関わり方や本人の状況によって、こだわりの物が移って行く。最近は、気になる様なこだわりが減ってきた  
様に思う。

〈嘔吐〉臭いや雰囲気過敏で、嘔吐することが多かったが、情緒の安定と共に下って現在はほとんどない。

自傷・・・気に入らないことや嫌なことがあった場合、クルーザーに自分の頭を打ち付けたりすることがある。声をかけて  
注意し、何か手にもたせて注意を他に向けさせている。

自傷・・・不安やストレスが溜まると、セーターやシャツの袖口を噛んだり、自分の腕を噛む。  
他傷・・・不安やストレスから友達や介助者を噛む  
奇声・・・嬉しい時に高い声を発する。

#### ☆他傷

〈対応〉教員や友達の髪の毛を引っ張ろうとしたり、教員をつねろうとしたりするときに、過剰に反応すると逆効のため、  
冷静に対応する。「いやだよ」「いけない」ということは伝え、さらにどうすればいいのかを伝える。

〈課題〉教員や友達の髪の毛を引っ張ろうとして、教員がどう反応するか、うかがっている様子。

#### ☆脱衣

〈対応〉常にではないが、本人にとってブームのような時期があり、洋服(上着)や靴下、靴を脱ぐことがある。これも過  
剰に反応して指導をすると、こだわってしまうため、冷静に対応する。あえて、反応せず様子を見ると、反応のなさに、  
つまらなさを感じた様で、脱ぐのをやめることもある。

〈課題〉教員の反応うかがいながら、靴を脱ごうとすることがある。

他傷: 気分が高揚した時に、側にいる人を引っ掻いたり、髪を引っ張ったりするので、言葉がけをしたり、その場から離  
れて気持ちを落ち着かせるようにしている。

器物破損: 手の届く所に物を置かないようにしている。置く必要がある場合には、必ず側について、触らせないようにし  
ている。

指・物なめ: 時間を決めて、手を膝の上に置くように促したり、教員が手を握ったりして口の中に手が入らないようにして  
いる。

・他傷・・・注意喚起や不満の訴えは(遊びを「おしまい」と言われた時など)又は、人が近くに近寄っただけで突然、危害を受けると勘違いしてかめがねをとる、顔、頭をたたく、筆画等の行為がある。基本的にはノーリアクションで対応(対教師の場合)。友達にしてしまって、やめるように言われたり、話されたりしても繰り返す時は個人ブースに移動させ、しばらく静かに落ち着くまで関わらないでおく。

・奇声・・・主に喜んで「キヤーツ」とかん高い笑い声多。その声がきらいで自傷になる他児がいるので、できるだけノーリアクションで早めにおさまるように、他に気を反らせたり口の前に指を立ててシートと行って見せたりする。

・こだわり・・・「この先生とする」と決めているような所がある。前年度から持ち上がりの教員が主。新しく担任になった教員には、大体「どこまでだったら許されるか」反応を確かめながらいろいろと問題行動を試みるようなところがある。1年間つきあっていくうちに慣れてはくりますが、何がしかの順位づけのようなものが本人なりにあるように感じられる。好きな教員もクラスが変わると「あなたは、ここの人じゃない」的な扱いに変わることもある。基本的にはどの場面でも、すべきことはしてもらい、問題行動に対しては、あまりリアクションをしないで対応している。

・指・物なめ・・・口に入れてはいけない物がある時には、代替のものを渡すことで回避していた(たとえば、赤白帽もかぶらずにくわえていたり、あごひもをくわえていたりしたので、中庭や朝の運動のスケジュールカードにビニールひもをつけたものをもちせて赤白帽をかぶるようにしていた)が少しずつはなしていくことでなくても平気な場面が増えてきている。指はつめ、あまかわをかんで、血が出るほどにもなるので、噛んでいる時には気になるところを保健室でカットしてもらったり、手を洗ってみたり、他の物を渡したり何か一緒にしたりして気持ちを切り替えることで離れられることもある。

こだわり:指先に逆むけがあったり、爪の一部がはがれたり、割れたりしているような状態の時、気にせずと触っていることがあります。その部分を爪切りできれうにして消毒するとしばらく忘れてしまいます。

奇声:楽しいことがあった時、特に予期しない時、親しい人(お母さん、お父さん、先生、ヘルパーさん)に会った時、給食中、座位保持椅子に座っている時間が長くなった時等に、自分の気持ちを大きな声にして表現することがあります。問題と言うことでもありませんので、給食時は椅子から降りて好きなおもちゃで遊びます。ただ、保護者によるとご家庭では休日、お困りのこともあると伺っております。

指、物なめ:ハンドタオルを欲しがることが多く、口にくわえると安心します。ハンドタオルが無い時は指をかなり奥まで口の中に入れていきます。特に登下校時のスクールバス内等、ひまな時に見られます。従ってハンドタオル等がなくても何か興味のあるものに集中していけば必要ないので、できるだけ本児と楽しく遊ぶことを心がけタオルがとれるいうに持っています。口元への習慣的な刺激の面のあるようでこの様子が何ヶ月間見られない時もあります。

自傷・・・つめを自分でむいてしまう。特に対応は出来なかった。

他傷・・・意味が無く、人をたたいたり、ひっかいたりすることはないが、イライラしている時は人に対して手を出してしまうことがある。また、本人に要求事項を多くすると、物を投げだしてしまうことがある。

(対応)イライラしているような時は、友達を近くにさせない、

・本人に要求事項がある時は、できるだけ本人がその気持ちになれるような状況や場面を作り、「嫌々やらされる」という状況をできるだけ作らない。

〈多動、こだわり、徘徊について〉ひも、ビニール、ナイロンなどが好きな「オモチャ」が無い時はジッとしている事が難しい。オモチャを求めて車椅子から下り、手当たり次第物を手で引き寄せて口へ運ぼうとする。対応として、安全はオモチャを与える。飽きて捨てることもあるので、一日3種類ぐらい用意しておく(ローテーションは可能)。気に入っているものは長く遊ぶ(振り回す、噛む)

(課題)オモチャを全く与えない状態では常に多動、徘徊する本児を制止続けることになる。本児も求めているものを与えられないことにイライラして表情も悪くなり、それでも探し求め続ける事になる。しかし、オモチャで暫く遊んで落ち着いた後に作業的な取り組みが落ち着いて出来るのであり、オモチャを全く与えないという事は現時点では考えられない。又、本児がオモチャに夢中になっている間に周囲との関わりが遮断されてしまうかというそうではなく、オモチャをくれり先生や友達への愛着、オモチャで遊ぶことに寄る気持ちの切り替えや気分の高揚、独歩、ウオーカー歩行により自らオモチャを手に入れたことの達成感など、オモチャをマイナスの意味を含んだ「こだわり」と位置付けるにはためられる程の良い効能がある。

〈異食、丸呑み、物なめ〉適したオモチャを与えられない状況の時に手当たり次第、スーパーの袋や紙等を引き寄せて噛みちぎり、周囲が見過ごすと飲み込んでしまうので目が離せない。

草や土については、感触を好み、口内で楽しもうとして、飲み込んでしまう。対応として、安全面、衛生面での配慮からも適したオモチャを用意することで回避できる。

(課題)草、土についてはそれらを口に入れようとするから室内での活動が主だったが、外での活動をウオーカーで行うことにより外での活動も確保された。草、土にはウオーカーからは手が届かない。ウオーカーでの外の活動の機会が増えるにつれ「外気に慣れ歩くこと」が楽しみとなり草や土への執着が薄らいだように見受けられる。同時にウオーカーなしでも歩行が安定してきたので、外でもウオーカーなしでの歩行が可能になり、すぐに座り込んで草や土に手を伸ばすことは激減した。

過食・・・一食分食べたらしまいということは理解しており、食事前程の強い要求はしないが、こちらで量を調節しない限り特に好きな食べ物については食べ続けるものと思われる。

・こだわり・・・思いこむと成し遂げるまで、気持ちの切り替えが難しいです。他の活動をするなど場所ぼどをかえるとい

いです、

・奇声・・・喜びの時、興奮しての声が多いので、興奮しない環境につれていきます。

・器物破損・・・教員がいつも離れずついて防止しています。

・偏食、嘔吐、丸呑み・・・給食時の指導の中で行っています

・指・物なめ・・・なめても安全な物(おもちゃなど)を渡すようにしています。

他傷→気持ちが高揚してくると、人の髪の毛を引っ張ることがある。対応としてしっかり目を見て注意している。

指・物なめ→物として、おもちゃやおしぼりケースなどをなめることがある。対応としては、気持ちを他に向けるようにしている。

他傷→髪の毛を引っ張る、つめを立てる、たたくなど頻度は多くないので周りとの接触には気を付けるようにしている。

多動→体調の良い時は、自分の行きたい所によく動く。そのままキャットウオークなどを歩かせる。

こだわり→ブロック、特定のお友達の側に近寄っていく。

物なめ→カラフルな色の大きめのブロック。

・学習場面以外や排尿時に主に親指を口にいかむことがある。冬場はそのこともあり親指の関節部が赤切れたように割れてしまう。少しずつ指を口から離す時間を拡げて行くことが課題。

〈指・物なめ〉

・スクールバスの中でのジャンパー等の衣服噛みがひどかった時期、バスに乗る前に乳幼児用の歯固めやラップ等のおもちゃをかばんにつけて対応した。暖かくなりジャンパーを着る機会が減る頃には噛みくせが減少した。

〈他傷〉

・本児なりのコミュニケーションとしての相手をたたいたり、噛んだりする行為に対して、相乗効果のならないように、大げさに注意せずなるべく穏やかにやめさせ、なでるなどの注意の引き方を指導した。

・たたいたり、噛んだりする行為は間違った接し方であることを意識させるために、できるだけその行為をする前に留めるように配慮した。

課題

・学校では、相手に対しての単純な関わりとして他傷行為は伝承してきているが、教師の気を引くために友達をたたいたり、あるいはやきもちをやいて教師が関わっている友達を叩いたりすることが目立つようになってきている。発達段階から見れば特に問題はないと思われるが、力の加減ができないため相手に怪我をさせてしま場合もあるので常時注意が必要である。

【質問2】発語への取り組み(支援ツールの利用など)

PECSにおけるフェーズ1のカードと好子の交換、フェーズ2の特定のカードを認識して(ほしいものの写真を理解して)カード一土をトレーナーの気を引いて渡すというところまでは可能であることまでは実際に体験している。本症候群の人々はカードの材質に気を取られやすいが、カードはおもちゃとして使用させないことを厳守して、2人制プロンプトが出来る環境にあれば、正しい自発的要求の表現は見につけられる可能性は大きいと感じる。

こちらから取り組んだことは、課題別学習の際、学習内容を写真で選ばせる、やりたいあそびも写真で選ばせるなどと少ないですが、本児が黒板に貼ってあるプールカードを持ってきてやりたいと訴えてきたり、いない友達の写真をもってきたりと、本児なりに活用している。

- ・トイレ指導の時など、むきあって目を見ながら、口元をみせ、発声に興味をもらせ繰り返す。→時々、同じ音の発声のみられた。
- ・のどを触らせて、有声音を手で感じさせる。
- ・エコリアができたらずぐにほめる。

PECSに取り組もうとしたことがあるが、二人体制での指導を継続して行う支援体制がとれず、本格的に取り組むには至っていない。

家で使用しているサイン(トイレ、水、電車、ヘルパーさん等)

- ・睡眠障害が出た時も学校では、授業に参加し、眠ってしまう事はありません。
- ・宿泊学習では睡眠障害は出ませんでした。担任が夜に様子を見るようにしました。

お母さんの協力があり、日常使っている動作言語を全て洗い出し、掲示したいり、ファイルにしている。

絵カード、写真を提示するすが、あまり効果はなかった。

特にありません。文字や数字を書いた紙(2択)から選んでもらうことは、作業の時などでありますが・・・

写真カードを使ってみたが、それよりも、手差し、視線、クレーンなどのほうが要求表現が伝わりやすかった。物は遊びにつながってしまい・・・あまり、うまくいきませんでした。

- ・発音は「ママ・・・」「あー」「はう」などの発声がある。指さしはでき、発声と指さしで要求や報告を伝える。身振りサイン等、簡単なもの(粗大模倣)だと覚えられる。写真カードにはあまり興味を示さなかった。

こだわりになりそうなもの(本人の好きな色や道具)が視界に入らないように注意を逸らす。

- ・表現したいことをいっぱいもっている児童なので、絵や写真をカード状にして、渡している。(自分から伝える事はもちろんの事、これから行う事を教師が伝える事にも使用している)

ありません。イラスト、写真を見るというよりはその素材(紙、プラスチックなど)に興味が行ってしまうため。

- ・教材を並べて、やりたいものをえらんでもらう
- ・トーキングエイド(声を録音できて、指で触る事で声が出る)を使って、朝の会などの司会をする。

- ・個別のホワイトボードに写真を貼って、伝えるものを作っている。(自分の活動の見通しを持つため)
- ・クラスの児童で共有しているものとして、中型のホワイトボードに遊び、係り、場所などの写真を貼り、そこから要求したい写真を選んで伝えられるようにしている。

特に行ってないが、絵カードや写真カードなど視覚的な手がかりとなるものを提示している。ただ本生は、そのカード類もおもちゃになってしまい投げたり、破いたりする。

スイッチ等の使用  
・スーパートーカー  
・Step by Step 等

日常生活場面での要求表現や指示理解を助ける為に補助的に具体物や写真カード、絵カードなどを使用しています。

Ex. トイレに行きたい時

トイレ用の袋を取り出し見せる。又は、写真カードを見せる。本児の場合、受信、発信どちらでも活用できます。

・PEGS等のツールを使用する為の前段階として、日常生活の朝の会や帰りの会において、絵カードや写真カード等の視覚教材の提示を行っている。  
・排泄児にサインを促した後にトイレに向かう。

移動をする際に目的地を示す写真カードを見せたり、持たせたりすることがある。

視覚的情報を取り込みやすいことから、ピクチャーカードなどのツールを用いようと考え、取り組んだこともあるが、本人が手に取りやすい大きさであると、そのカード自体に興味がいってしまい、本来の目的を果たせなくなってしまうことが多く、有効な手段とはならなかった。

(例) トイレに行くことを国人するために、トイレの写真をラミネートしたものを準備したが、その写真カード自をさわってさわってカシャカシャした音を楽しみ始めた。

これまでの指導で、一番有効なのは「実際の場所」「実物」であると感じている。たとえば、歯磨きの前に歯ブラシを見せて「今から歯を磨くよ」ということを訴えると、比較的抵抗が少ない。また、体温を測る前に体温計を見せて「測るよ」ということなど。本人に、2つのうちどちらがいいか選択させる場合なども、バーチャルなものでは効果が薄く、実物が最も効果的であった。

・PEGSなどはしていません。

・発音は困難ですが、要求や感情表現は分かりやすいです。人を呼んでいるような発声が見られたり、今頃「ウーウー」を発声し、教師も同じように「ウーウー」と返すと喜んで「ウーウー」と行ってきます。今は、遊びですが、これがコミュニケーションの一つの手段として発展していけばと思ったりします。

・大好きなボールプールへ行く時は、ボールプールの写真カードを見せると教室からその場所へ意欲的に歩いていきます。独歩で。

授業の中で好きな遊び、好きな食べ物の写真カードを用意し、選択して伝えられるように取り組んだことがある。

・PECSは使用していない。

・光沢のないマット紙に印刷した写真カード、具体物を使用して指導している。

「はい」「いいえ」の答えを録音し、選択することで意思表示ができる機器があるが、本生徒は押すと音が出ること、スイッチを押す際の感触、などの方に興味があり、コミュニケーション機器本来の活用目標にはあまり関心を持っていない。

いぬ、りんご、みかん、バナナ等、具体物の模型を見ながら文字数を確認し、指を折って(教員が)、発語(近い)の練習をした。こちらが言う事を理解する事がかなりできているので、教室の移動等、体育館、音楽室等、特に写真と用いずに言葉で理解する事ができた。

担任になった当初はごく簡単なシンボルマークを使いましたが、マークを使ったやりとりは、難しい事が多かったです。マークよりも語りかける言葉「トイレ」「バツ」「御願います」などの言葉かけの方が入りやすく行動に移せました。現在はシンボルマークの○×カード、教材等の写真カードを一応使っていますが、言葉かけメインです。

絵カード程度で特でない。
スーパーカー(二択で音声付きのスピーカ)を使って、自分の行きたい場所を選んで、行く事を行った。自立活動の時間に好きなバスの遊具かトランポリンの写真と音声ボタンをおさえて選択した。
・磁石を付けた絵カードや写真カードを手の届く位置に貼っておき、トイレや遊びに行きたい時や何かほしいときに、そのカードを自分で取り近くの人に刺しだし要求を伝える。
写真カード(場所)の利用は効果的でした。本児は、自分から人と関わりを持ち、意思を伝えようとする気持ちが強いため、身振りサイン、カード等自ら積極的に使用(利用)しています。また、その都度違った使い方をしていますが、楽しみながら使える様に意欲を高めています。
小学5年生で模倣が可能になり、マカトン法を取り入れた。「おしまい・終わり」「交換」は定着し、使える。
・コミュニケーションカード「怒っている」「眠い」「休みたいの」使用。イライラしている時に指さしする。 ・「ボカ」・個別課題が終わった時に、「先生出来ました」のメッセージで報告
学校では今の段階ではとりくんでいません。
・発語は困難であるが、意思を伝えようとするので受け止めをしっかりとる。→本人納得も、目標の行動が画実現できる。(人的配慮) ・お友達や先生に、話しかける様に声をかけてくることに親しみを持って応える(教師、支援者)(人的配慮) ・写真や画像で(具体物)本人の要求がりがいできたりする。 ・一番利用しやすいのは写真でした。→絵はこれからかな?
マカトンサインを朝の会の時に一部取り入れている。着替えや歯磨きのサインができる。また、教師が活動内容を伝える際、絵カード、写真カードを使用している。
興味のあることや物、人には、自分から関わろうとする為、行動で理解できることがたくさんあります。おやべりをずっとしてくれることがありますが、わかってやれません。楽しそうに、歌う様に、おしゃべるしてくれませんが、一緒になっておしゃべるしてあげたりしています。
「発語」中心の支援ツールを使用したことはないが、ボタンを押すと光る(回る)等「○○したら～」というものでやりとりをしたことはある。
ツールの使用は適さない
・絵カードを使って、1日の流れを知らせています。 ・写真カードを使って、欲しい物遊びたい物を聞き出したり、これから行く所などを知らせたりしましたが、こちらからの言葉掛けを理解していることが多いので、声を出しながら目的物に向かって手を伸ばして訴えて来ている時は、重たい専用の机を動かしてやり、自分から立ち上がり目的場所にいかせるようにしていく取り組みを行っています。(自力歩行を楽しみ、安定感も増してきたので) 自分の欲しい物を手にした時は、満面の笑顔を見せています。

- ・入学時には靴箱やたななどにキリンマークをつけて、自分のたなと覚えさせた
- ・散歩の時はピンクのひもを肩からかける。
- ・トイレの絵カード

本人に対しては特に使用しなかった・教室内のボードには授業を表すシンボルマークもあったが、本人は写真カード(特に友達の顔写真。放課後の活動クラブの大型カー等)が好きで興味をもっていたので、移動の時は写真カードを利用した。

写真カードのみ使用したことがあります、あまり有効ではありませんでした。

言葉の時間に感情を表すカードを用いた感情表現の学習を行っている。場面や授業展開に応じた適切なカードを75%程度の確立で選んでいる。平時の指導場面では、行きたい場所を写真カードで表したり、提示したりしている。カードや機械の使用について、本児の提示されたものへの興味の強さからすぐに手を伸ばしたり、それを規制されることで怒りを感じたり、手に取った物をひきちぎったりする行動から支援ツールの使用が難しい現状もある。

「あぎゃ」「ああ」「あかん」「んー」「プー」「ま・ま・ま」等の発声があり、意味としての使い分けは、まだこちらが理解できていないが、依頼での発声が多くあり、指示理解も広がりつつあり、内言語も増えていると思われる。PECSは現在使っていない。興味を持てる写真を利用している。次の段階として考えている。

今のところ支援ツールは取り入れていないが、視覚的な選択肢を活用できるようにしていきたい。

マカトン法や自作の支援ツールで学習しています。「トイレに行きます」や「下さい」のサインを使えるので、サインを使ってコミュニケーションが出来た時は、大いに褒めるようにしています。見本を楽しく見せることで、喜んで模倣するので、あいさつのお辞儀をはじめ、いろいろな動作が身に付いてきています。「遊戯室に行きます」「自転車に乗ります」「ブランコに乗ります」などの写真カードを定位置に貼っておくことで、遊びたい時は、自分から取ってきてコミュニケーションを図ることができてきました。

写真の認知力は高かったため、カードを選択するなど取り組んだ。しかし、PECSでいうフェイズⅠくらいまでで、とどまった。(指示理解や表示に使っているサインとの関連の課題があったように思う)

- ・首から写真カード(友達、活動の流れなど)をぶら下げて、本人がその都度確認したり、見て伝えたり出来るようにしていたこともあるが、現在では、主にジェスチャー、マカトンサイン、発語のみで大丈夫。
- ・クラス全員のために貼ってある「朝の会の流れカード」や「時間割カード」「友達の写真カード」は理解していて、しっかりと活用できるようになっている。

発語ははっきりとせず「う～」「あ～」という発声を中心である。学校の色々な場所を写真にまとめ、一枚のパネルにして休憩時間、行きたい場所を指差してできるように支援している。

- ・カードを使って、発音を促す。担任の発声をまねさせる。
- ・実物を使って、発音を促す。
- ・絵本を使って、あいさつ、登場人物等の発音を促す。
- ・コロコロあいうえおを使って発音のまねをさせる。
- ・「あいさつがんばり表」を作り、朝のあいさつにとりくんだ。



実物の写真を使用した要求カード(水筒、トイレ)とスケジュールカードを使用している。その他については今後取り組んでいく必要があると考えている段階である。

現在は本児に適した特別な支援ツールがありませんのでおりませんが、以前ビッグマックスイッチ(VOCA)とパソコンを連動させて使ったことがあります。(ソフトは校内のサーバにある教育ソフトを使用しました。)

ありません。但し、素材、感触の好きな物に加工を施しています。機嫌が良い時の発声は増えています。

ありません、まだ理解が難しいと思います。

排泄に行く時はトイレカードを自分の顔写真の下に貼らせている。

本児に対しては利用していません。

簡単な絵カード、写真カードの使用のみ。表情、手振りで多くの情報を伝えることができる。

特に利用はしてないが、朝の会や学習時の号令などをビッグマックスのスイッチで代替している。

- ・生活全般においてマカトンサインを取り入れ、言葉だけでなく視覚によるコミュニケーション手段を用いている。トイレサインが定着し本児からのサインも見られ始めている
- ・お気に入りのオモチャや遊具の写真を黒板等にはり、遊びたい時にその写真を指さしたり、手にとって教師に手渡すように指導している。

特に支援ツールを使っでの取り組みはしていない。(…ピクマウス等の録音スイッチツールを押すと音声聞こえることは理解できて、遊びの中で自分からボタンを押して楽しむことはできる。)・使い分けはできないが、「おかあさん」(※兄弟や家族が母親を呼ぶ言葉)、「あきちゃん」(※自分が呼ばれるときの言葉)など聞き言葉で覚えた言葉を、周りに呼びかけるように使うことができる

【質問3】危険回避能力の乏しさや不適切な行為への対応、特異な行動を予知して事前に対応した経験など

してしまうと危険なこと、やめてほしいことを防ごうと大人が手首などをつかんでしまうと興奮も高まり、筋緊張も強まる。指先、手首、肘、肩、腰部に緊張を動作法に基づいたやり方でゆるめることで(防ぎたいことがおこったら、おこりそうとき、すぐに)落ち着いて行くことが多い。本児の場合、さかむけた皮や爪をはがそうとすることが多いが、他の興味のある(作業的なもの)に注意を向けさせることで収まっている。

包丁やはさみを使用する際、手元をよく見させるとともに、傷つけないよう配慮が欠かせない。

常に教師がついていて、怪我のないように注意しています。何でも口に入れることは有りませんが、なぜか床に落ちている小さなゴミは口に入れます。掃除はこまめにしています。こちらが気にすると、さらに気になってしまうので、治りが遅くなってしまいますので、あえてけがにのことはふれませんが、好きな物を与えたり、傷をさわらないように配慮しています。他に注意がいつているときは傷は全く意識していませんでした。

- ・傷をいじり化膿・・・発疹をかいて。薬、とめる、気をそらす。
- ・行動の予知・・・「オウエ」

「3. 問題行動への対応と課題」で記述したとおり。

- ・常時1対1でついているため危険が起きる前に、予防している。

水に触りたくて、流しに立つのでつかまり立ちが上手になりました。

他傷する手を自分でさすって、良い手にするという動作をして、謝る事を繰り返してきている。悪い事をしたという思いはあるので、その都度対応している。

自傷、他傷:あまり、興奮させない。  
不適切な行動:無視する事で収まります。

不適切な行為に対しては、一度厳しく指導すると、繰り返す事は少ないと思います。

他傷はやはり、無視、又は1番コンタクトがとれている人が横目の視線で嫌悪感を表現するのが良かったと思います。また、不適切な行為に関しては、大好きな布がテープやシールなどをうでやほおや鼻のあたりに貼って、一緒に遊んでいると切り替えられました。

特にありませんが、危険と思われる物は初めから置かないようにしている。

- ・常に1対1対応を心がけている。
  - ・基本的に慎重なお子さんで、危険な場所等では慎重に行動しようとしている。
- ◎経験から獲得しているのかどうかわかりませんが、危険なことからは自分からはなれようとする様子がみられません。

- ・歩調を合わせて、手をつないで一緒に歩いたり、少し後ろから様子を見る。
- ・危険な場所(歩きにくいところ、階段など)は前方で両手を持って誘導するなど心がけている。
- ・危機回避能力は乏しいとは思わない。自分でわかって進むのをやめたり、やろうとすることをやめたりできる。乱暴な友達とすれ違ふとよけたりしている。

・石や土など何でも口に入れるのは「注意してほしい、かまってもらいたい」という意思表示だと解釈している。「だしなさい」「捨てなさい」と指示すると素直に口か出す。逆に「食べていいよ」「食べなさい」などというやらないことが多い。問題行動をわざとしているようなときもある。  
・髪抜きをして抜いた髪をくちにふくんで感触を楽しんでいる？こともある。口の中で髪を絡めて人に見せつける。注意をされることや、何の反応もなければ人にくっつけたり投げたりしてどうにかして注意を引こうとする。この問題行動は一ヶ月以上続き、結果後頭部付近の髪が薄くなった。対応としては好きな音楽を聴く等して注意をそらすこと。情緒の安定をはかることを主とした。うまくいくときもあればそうでないときもあった。

自傷に関しては頭を窓ガラスにぶつける。手のひらで頭を何回もたたく。机に頭をぶつけるなどがある。問題行動を自らしてかまってもらいたいときもあれば、ストレスがたまっているときもある。環境を変えると落ち着く場合もあった。

目の前にある事象にこだわってしまう様子が見られた際、上手く場面を変えられると気分が転じて、次の行動に移行できたことがあった。

・常ではないが、他傷しそうになった時には口答で注意を促すとやめる時があります。  
・結膜炎を契機に目を叩打することが習慣化した。ご家族が旅行に連れて行き、マンツーマンで関わる事により、他の事に関心を持っていく事が出来たため、治癒しました。

車いす等を離れる場合は、常に、つかず離れず教員の視界の中に本児を入れているので、大きな怪我等はなく過ごせている。

・現在のところ、危機回避のために大人が常時側にいるようにしているため特に書けることはありません。  
・特に女子の髪引っ張りにたいしては、注意するだけでなく、本人がかかわりを学ぶよう声かけをしています。また、その日の状況によって本人の反応には違いがあります。

怪我についての予防は、歩行中もつまずきやすいので、教師同士が声を掛け合って、必ずだれかが近くで支援出来るようにしている。

こだわって他傷(近くの相手の手をひっかく、つまむ等)ある時は、友達から離れて座らせる。

対症療法的な手立てはとっていません。(根本的解決になりにくい)  
・怪我や事故については、安全な環境設定を行う事と、子ども同士が関わる場面ではトラブルを未然に防げるよう見守りと目配りに留意しています。  
・本児の場合、自傷、他傷はありませんが本児に限らず、自傷、他傷は要求や感情の表出がうまくいかなかったり、本人がうまくやりたいけどうまくいかない、人の手助けの求め方も分からない時多いように思われますので、人に受け止められる安心感や 思いを表せるコミュニケーションの力を伸ばすよう取り組んでいます。  
・不適切な行動は感覚刺激で遊ぶ段階ということもあるかなどと思い、感触を楽しめるおもちゃに興味に向くよう、色々試しています。ex. 柔らかかめの風船・ボール。クニクニしたおもちゃ。手の汚れにくい粘土。

・安全で楽しく学習に取り組む為に、本児に適した教室内の安全環境や構造化、場面設定等、周囲の環境を常時整備している。  
・自傷や他傷が起きかけた時は、さりげなく抑えて、他の興味のあるより良い活動に向かわせる。  
・適切な気分転換や情動発散の方法を伝え教える。

傷口をいじることはよくある。声かけで一時的にやめることもあるが、知らぬ間に、また触っている。爪はがし、かさぶたはがし、さかむけをめくるなど。

自傷や他傷はなかったと思いますが、転倒して何度か怪我をしたことがあったので、移動等では十分配慮していました。怪我をしたところのかさぶた？などをよくむしっていたと思います。その都度注意をして傷に触れないように他の方に気をそらすようにしていきました。

・友達の髪の毛をひっぱろうとした時、担任の方を見ることが多いので、様子を見て止めたり、友達と本人の間に入ったり、他の遊びに誘って気持ちを切り替えさせたりしたことがある。

問題行動は良い意味で無視し、強化しないようにした。

自分の指を噛んだり、何でも口へ入れたりする時には、好きなおもちゃや本(絵本)をみせるとそちらに関心がいつて、指を噛んだり、口へ入れる事はやめる。

きついにおい(ユリの花など)をかいたときや、空腹時にわざと鼻の穴に指を入れて、自分では気持ち悪くなって吐き気を催すことがある。そうしたときに、これまでに保護者や寄宿舎指導員、教員でとってきた対応は、「あられ」を一粒口の中に入れてあげるとのこと。そうすると吐き気が治まる。吐き気を催した時に備えて、車椅子の後ろのバッグに常にあられが準備してある。この方法は昨年度以前から行われてきており、自分は引き継いだだけなので、どのような経緯でこうした方法がとられたのかは不明。

本児は少しの段差にも大変慎重であり、校内ではほとんど転倒することはない。しかし、中庭の道具等に興味を持ち、積極的に近づいて行くことがあるので配慮が必要である。

以前に転倒して前歯を折ったことがあるので、教室や例えば移動教室へ行った時の部屋、レストラン学習でのレストランへ行った時の座席への配慮等には気をつけるようにした。  
対応→本人が、いじりたがる様な物をどける。あるいは、あきらかに手の届かないところへ移動する等。そして、やはり大切なのは、目を離さないことです。

他人の髪を掴んだ時には、本人の目を手でおおうと髪の毛を放す。

特にありません。

2年生の時はトイレチェアで排尿した後、チェアをゆらしたり、容器をはずしたりして呼んでいたもので、おしっこをしたら拍手していっぱい褒めると喜び、その行動も治まっていった。

好きな物が近くにあると、突然立ち上がったたりして転倒の恐れがある。常に何に興味しているのかを考えられるようにしている。そういった原因がわかれば、立ち上がる事が予想できる。

・教室内は、危険のないような環境を心がけている。色々な物に興味があるので、本人が触ってもよいもの、触らない物(学級の物、友達の物)など場の工夫をしている。十分に触ったり、活動したりする場と物を作ったことで、本人も自由に安全に生活している。探索行為はほとんどない。以前は、ロッカーをあけて、ロッカーのとびらに自分の顔をぶつけてケガすることがあった。

・何でもは口には入れないが、タオルやおもちゃを口に入れる時は、習慣にしたいくないので、その度に言葉と動作で伝えている。

・傷や気になるところに触れる時には、一緒に遊んだりすることで、気分転換している。

・周りに気が散ったり、手を伸ばしたりして危険な時には、今何をするのか伝える。(「～しにきたんだよね」)。本人のケガにつながる行為や危険なことは「ダメだよ」と言葉と表情で厳しく伝えている。

前からの介助歩行では、少しでもバランスを崩すとびっくりして腕がちぢこまってしまうことがある。恐怖感があるようだ。ホットプレートなど熱い物への拒否感もみられる。ビニール袋などの感触を好み、口に入れることがあるが、飲み込んだりしない。花粉症の時期に目をかいてしまうなど、よりひどくならにために患部にさわらないといった理解は難しい。

鼻の穴にボタンや、綿、スーパーボール等を自分で詰め込んでしまい。入れた物を長く鼻の中に入れておいた為、それが腐敗し、悪臭を放っていた事があり、それを手術により取り除いた事がつい最近あった様です(ご家庭で)。学校でも、鼻の穴に物(石)をいれようとしている行動が1度ありましたが、その時は声掛けで危険回避ができました。以後、その様な行動はありません。

傷を作るとそれが気になっていじり続けます。バンドエイドや包帯もすぐにとってしまいます。服で隠せる部分は手当をしてすぐにかくしてしまうと忘れてしまいます。ですが以前手のひらをすりむいた時には、隠しようが無く、本人がいじるがままでした。結局そのまま自然治癒を待つしかありませんでした。ただ、次の日になると傷をあまり気にしなくなり、化膿はしませんでした。

基本的には移動中は手を取って歩いています。「段差」の言葉掛けと歩くスピードを緩めてあげると意識できて、用心深く足を出しています。同じように、階段降りの最後の段の時に「おわり」の言葉かけをすると足をするだして確認してから歩いています。

よろけて足をぶつかけたり、すりむいたりすることはあったが、大きな怪我等はなかった。階段等、手すりを持って自分で昇り降りできる。安全への配慮が乏しいため、一段下で見守る様にしている。校内で手をつなぐ事はできるだけしない。

団体行動で迅速な行動が求められる場面では、なるべく興奮させないよう目線を合わせず関わりを控えた。また、周囲の興味がある物に注意が転動しないよう、触って楽しむ感触グッズ(風船、各種ボール類)等を与え気持ちが逸れず、その場をやり過ごせるよう対応した。

歩行不安定の転倒防止で、主に階段では手つなぎ歩行が多いです。平坦な地で歩けると思っているも足が出ずに転ぶ事があり、予防や対処しきれないことも多いです。熱したホットプレートは本児も恐れがあるようで、近寄りませんでした。

・校外学習の際、電車とホームの隙間に足を入れてしまうことが予測されたので、日頃からなるべく自分で足下を見て、移動したり、障害物歩行に取り組んできた。足下への意識は高まった様で、2・3学期の校外行事では自分で慎重に乗り降りできた。

(傷いじり)家庭で傷などを「トントン」とやさしくたたくことを教えている。学校でも同じようにしている。

・グラウンドでの朝のトレーニングのとき、ころんで手のひらに怪我をした。→保健室で消毒と、大きめのばんそうこうをしましたが、気になりすぐにとってしまいました。再度、治療しても同じ行動を取ることが予想されたので、そのままの状態にしたところ、傷口をよく見ていましたが、触ることはありませんでした。下校時刻頃には、傷口が乾燥し、その後順調に治りました。

・椅子に座っている時には、目の前に机などは置かない様に注意している。  
・鼻に指を入れて鼻血を出していることがある(特に通学中のバスの中で)。教室では色々な刺激があり、鼻に指をずっと入れていることは少ない。気になる時には注意したりすることはある。

自傷に近い髪むしり、袖口をかんでいらいだつ、または床に寝転がる。動作法の指導者による助言、保護者の助言により活動そのもののテンションがあがりすぎた時、自ら調整しようとして床に寝転がっている様だ。日常的には過緊張をコントロールしてあげること。腹式呼吸を誘導し、心身のリラックスをじかんとさせてあげたいから。体の力を抜ける様に身体に手をあてる→あくびや、手足の伸び等自分からできる。

移動の時は、必ず大人と一緒にです。手をつないでいても転ぶことはありますが大きな怪我はありませんでした。

他傷に関しては、極力事前に止める。その時「ダメ！」ではなく、やさしい関わりかたに切り替えさせる。(手を持って「トントンね」などというように)  
何でも口に入れることも多かったが、環境を整えることと、常に気をつけてみていくこと他、特に対応策をとることができなかった。しかし、入ってしまったも、すぐに対応すると本児、自ら「ペツ」と出すことは出来る。

- ・とにかく危険なものに近づけない
- ・事前に予測して回避(膝サポータをしてけがを回避)
- ・別のものに興味をもたせる

常に目を離さないで対応

・マンツーマンでついているが、他の児童の指導中など、便さわりや口のつまんで物を入れる、傷を気にしていじりまくり傷をひどくさせたりということがある。  
・トイレに行くとき排便成功。目の前の教室に着替えを取りに行った少しの時間、トイレに戻ると手にうんちがついていてそれを眺めていた。ということがあった。そこで、校内移動用トイレセットを作り、教室移動をするようにした。また、ひっかいたらすぐにクリームをつけようとするため、保護者からクリームを預かっていた。クリームをつけてと要求があったり、クリームを見せるとひっかきや「かゆいよ」の擦りの手を止めることもあった。

- ・移動時はいつも一緒に行動しています。危機回避と言えば、転倒のことが上げられます。自力歩行をさせると、好きな場所へ進んでいきます。足元を見ていないようで心配してしまうことがありますが、本人なりに慎重に行動しているようです。かえて介助歩行の時につまずいて倒れかかってしまうことがありました。
- ・学校ではありませんが、アレルギー(季節の変わり目や花粉で)のため、目の周辺を赤くしていることがあります。寝入っている時に無意識にかいてしまっているようです。
- ・ここに書かれている不適切な行為は見られていません。

- ・予測される危険行動がある場合は、事前に指示を出すという程度で、回避のための対応で特筆する経験はありません。
- ・特異な行動に関しては、排泄中の性器いじりや便さわりなどがありましたが、行動を予知し教員が「手はお膝ね」「ふざけないよ」「待ちます」などの声かけでかなり改善されています。

あまりみられない

危機回避能力は乏しいが何でも慎重なため、怪我をすることはあまりなかった。自傷もない。興奮したり楽しい時でも急に友達をたたくことがあったので、興奮させすぎたり、友達にしつこく関わる前に距離をおいたりした。

食事がいらなくなると手で食器を振り払ってしまうことがありましたが、「おしまい」「いらない」のサインを決めたことで、振り払われる前に片づけをすることが出来る様になりました。

1対1で常に介助することで危険や特異行動を防ぐ様にしている。他の児童生徒とのかかわりの場面では、腕を持った介助や「やさしくね」「トントン」等の言葉による介助である程度の成果を上げている。

危険回避しにくいですが、言語やカード等での理解により、状況に応じて行動を調整していることが多くなっている。そのような姿を肯定的にとらえ、対応していきたい。

寂しさや悔しさを感じないように、こまめに言葉かけをしてコミュニケーションがとれるようにしています。また、傷いじりなどが見られた時は、止めさせるのではなく、違うことをことに関心を持たせるようにしています。歌を歌ったり、面白い顔をして喜ばせたりしてしながら対応しています。

突然大声を出したりする為に、聴覚過敏の自閉症児から押されたり、たたかれたりすることがあります。その児童が近づいてくると危険を回避するような仕草をします。何度も嫌な経験をしたせいかその児童が近づいてくることに対しては、担当教師にしがみついて危機回避ができるようになってきました。他の危機回避については未熟です。歩行中は、段差でつまづきそうになる場面が数多くあります。教師は、常にすぐに手をさしのべられる位置で介助しています。

・お茶をのみたいなど、本人がしたい行動が適切にできるように指導することが、結果として不適切な行為を減少させている。

・担任していた生徒は、自分にとって主となる担任の態度や様子から行動の善・悪を考えたりする。対応する人が一貫したルールを示しても、いつも同じ対応をとれば、上手に伝えたいことが伝わった。

・自傷の際は、「そんなことでもダメだよ」「どうするの？」と聞きくと我に返り、すぐ持ち直している。「本人のやりたい」という気持ちを大切に、どの活動も最後まで参加できるという自身をつけている。

・他傷など不適切な行動が会った際、こちらが「ダメ！」と一方的に叱りつけるような接し方してしまうと、本人は頑固になり興奮状態に陥りやすいので、「やさしくね」の一声掛けることを全体で心掛けてきた。そうすると本人は相手の頭を撫でたり、握手したりするので、それを待ち「～したかったの？」と責めずに聞いて、あえて言語化してやることで、本人が「友達とうまく関わりたい」という思いを大切にしていきたいと考えている。

何でも口に入れてと言う不適切な行為は、気が付いたら、注意してすぐにやめさせるようにしている。

歩行中、周りを見て転んでしまうことがあったが、自分で手を出して顔をぶつけることがほとんどなかった。

・傷は気になるので、いつもさわってしまいます。バンドエイドをはってもすぐ取ってしまうので、傷した時のことを話して、痛かったことを共感してあげると、落ち着きます。

・自傷の何が原因なのかを介助者が理解し、共感する様にしています。

・他傷については、きちんとダメだということを指導します。

・便さわりもした時は、きちんとダメということ指導します。

他傷行為をする時は、ほとんどハイテンションの時なので、必ず側について、すぐに対処できるようにしている。また相手の表情をよく見て行動しているので、不適切な行為をしそうな時には、笑顔を見せずまじめ表情で対応し、気分が高揚しないようにしている。

他傷に関しては起こりそうな場面がだいたいつかめてるところでは間に入って「手をつなごう～、上手につなげるねー！」と歌を歌ってすることを伝えたり場を盛りあげたり、しなければならないことに半ば無理矢理気持ちを向けさせたり、(くつをはく場面で手をとってくつを持たせる)などして他傷への気持ちを切り替えさせることで回避出来ることが多い。もしくは、表情を変えず、ただ手をとってすべきことに向かえるようにしたり、教師が関係ないことを小声でぶつぶつぶやきながら手をとって一緒に始めるとあっけにとられて、その気がなくなり活動に戻れることがある。

手をつなぎ行動することや他に関心を向かせて手すりや机のような物で身を支えるように促しました。

・感触遊びの授業では、さまざまな物に直接触れて、その感触を感じますが、中にはスライムや水のりのように食品ににているものもあり、口にいれようとする場合があります。こういった授業の際は1対1で対応していますので、教師が本児の手を持って口に入れないように声掛け、他の課題へとうながします。  
・登校時から傷をきにしていじっている時は、保健室で、消毒、傷テープ等の処置をした後、本児の好きな遊びに取りかかることで傷に注意を向けないようにしています。

事前回避で対応しています。触る、口に入れると危険な物については目に触れるとことに置かない。歩行時含め全てマンツーマン。草・土・砂等の異食を避ける為、外用ウオーカーを保護者に作成御願いました。傷いじりについては、ここ1年は本人の目に着く場所にかさぶたの出来るような傷(大きな)は無い。

・車椅子で学習していることが多いので、怪我などに対しては安全です。  
・自傷、他傷は特にありません。  
・何でも口に入れることに関しては、比較的安全で遊べるようなおもちゃなどを持たせるようにしています。

足下を見ないでよく躓き、怪我をする時が度々あった。そこで、キャットウオークにミニハードルや障害物を置いて歩く練習をさせた。はじめはよくつまづいたものの、障害物にぶつかる前に肩をたたくとまたくごとげできるようになった。その後、山の中を歩く訓練をしたが、まだ下りでの効果は現れていない。

自傷(髪を引っ張る)に対しては無視する。その場から離れて気分転換をはかるなどの対処をした

危険回避能力が乏しく、怪我をしたり、自傷や他傷があったりすることに関し、て上手く対応できた経験は？ 不適切な行為への対応の経験は？ 得意な問題行動を予知して、事前に対応できたエピソードなどはあるか。・机やテーブルの縁に衝撃を軽減するための保護材を貼りつけたが、本児がそれを気にかける度に何度も剥がし取っていた。だがそこであきらめずに何度となく補修し貼り直して、それが設置された状態が当たり前の環境になると、剥がし取ることへのこだわりが軽減した。



#### 【質問4】睡眠障害への対処法、宿泊学習での工夫・課題

宿泊時は、静かな環境づくりにつとめ、特に、睡眠に対する問題はなかった。

給食の最中寝てしまうことがありました。保護者からは「時期的なもの」と伺っていたので、10～15分その場で休ませました。宿泊学習では、興奮しているのか、ちょっとした物音でも起きてしまい眠れぬ事が多かったです。家庭でいつも使っているタオルをくわえながら、他児のいない個室で修学旅行では寝るようにしたところ、夜中起きることもなく朝まで、ぐっすり眠ることができていました。静かな環境を常に用意していくことが課題です。

- ・なるべく昼間は課題を与えて起きておくようにする。
- ・寝ても5分以内なので少しは寝かせる。
- ・宿泊学習・・・これからの課題。一室用意する。1対1の付き添い確保。

睡眠障害は今のところ感じられない。休み明けは生活リズムが崩れがちで、よりよい戻し方はわからないが、次第に本人がペースをつかんでいるので、特別な対応は行ってない。宿泊学習では、行為・排泄・食事等は前述の通りの支援を行うが、来年度4泊5日の宿泊になると、リズムが崩れそうで課題を感じる。睡眠は、同室の児童の指導を徹底し、静かな睡眠環境を整えるようにするか、夜は別室で教師が添い寝をする必要を感じる。また、日頃は家庭でしか指導・支援をおこなっていない風呂の介助の方法について、事前に情報交換を行い、衛生的に過ごせるよう支持する必要がある。

他の生徒とは別の部屋で教員と1対1で暗くして寝る。あまり声をかけずに、様子をみていく。

- ・写真や絵カードをつかっています。
- ・欲しい物の写真を選ばせるなどしています(5枚中から選べます)

体を動かす事、出来るだけ外遊びをさせること、などで生活のリズムを体に覚えさせるようにしている。疲れるとやはり、寝る事が多い。宿泊学習は個別に対応し、なんとか寝かせた。疲れると寝てくれた。

睡眠障害:学校でしっかりと、歩かせる。  
宿泊学習:あまり、刺激せずそと寄り添って眠る。

宿泊学習では、ベッドに横になっても、眼は開いており、眠る事はありませんでした。添い寝すると安心感からか、眼を閉じる事はありますが、謹かな物音や、添い寝をしている人がベッドを離れると眼を開けてキョロキョロしていました。しかし、ベッドから起き上がるという事はなく、朝まで静かに横になっている事は出来ており、次の日に眠くて活動できないということもないので、今現在はとりわけ睡眠に関する課題を立てていません。

睡眠障害で、眠そうな時は、15分～30分程度は(眠ってしまった時は)眠らせ、その後は普通の活動をさせるようにしました。宿泊は確かに、大変でした。けがをさせては仕方ないので、消灯後ふらふらさせるわけにも行かず・・・職員と1対1の部屋にし軽く(起き上がらないように)おさえ、ずっと背中や頭を撫でていました。そのうち眠りました。

朝、スクールバスから下りてくる時の様子や家庭からの連絡帳を通して、前日の様子を把握したり、推測することで、必要に応じて、ゆったりめのペースで(特に午前中)生活のリズムを整えるようにする。それにより、だんだん普段の様子、ペースに戻ってくる事が多い。

- ・学校では適度な運動量を確保したり、本人の好きなおもちゃなどを使用したりする。
- ・宿泊学習では、職員が交代で寝ずの番をして、本人が寝るまで見守るようにした。

・疲れがあったり、体調面を考慮し学校で休ませる事もあったが、基本的には学校では起きているよう指導している。  
・宿泊学習では、体力差を考慮し夜の移動(キャンプファイヤー等)を制限し、通常の生活のリズム(睡眠時間等)ができるよう心がけた。また、個室にて就寝させた(教員と1対1)。

宿泊学習(一泊)では、男性職員が添い寝することで短時間、寝る事ができた。

・適度な運動と日光浴をさせることによって体力を使わせる。基本的には体を大きく使う運動を取り入れている。バランスボール・脚立などの器具も使用する。  
修学旅行等の宿泊学習では、特に問題がなかった。理由として考えられるのは不慣れな場所で学習し一日を過ごす事で精神的に疲れていたのではないだろうか。  
・学校では疲れていてもほとんど休憩をとろうとしない。休むことができない。膝枕や添い寝など、人の温かさを感じる時にリラックスしてうとうとすることはあった。

導眠剤の影響で眠たそうな時は無理をさせずに、本人のペースを重視した。  
日常的に昼の運動、活動を多くすることを意識している。宿泊学習でも同様で、夜は家庭と同じ環境に近づけて(持ち物等)いくことを考えた。

日中の活動が眠りで妨げられることは、ほとんどありません。夜間に寝付けず、途中で目が覚めてしまう事はほとんどありません。(幼児期は夜泣きがひどく、眠らない日々が続きました。母)

学校生活においては、連絡帳や児童の様子等から睡眠状態を把握して対応している。これまでも少し、眠らせる事で児童が楽になり、後の活動に参加できると思われる時は少し眠らせ様子を見た。(これまで長く眠り続ける事はなく、少し眠る事で活動に参加出来ている)。基本的には学校では起きていて、みんなと一緒に活動するという考えで、様子を見ながらではあるが、声掛け等働きかけて、興味ある取り組みを設定し、活動に参加させている。学校での様子を連絡帳で保護者に伝えている。

宿泊学習の経験はまだないのが(21年度から校内宿泊学習がある)、いつもと違った環境での児童の様子は(4学年)想像できる。

将来に向けて家以外の所での宿泊を経験していく事は大切。学校での宿泊では昼間は(適度に)身体を動かして疲れるようにし、夜は児童の様子を見ながらではあるが、信頼関係のある教員がそばにいて安心して眠れる環境を作っていく。

・1年生、2年生で校内宿泊を実施したが、睡眠はやはり短く、なかなか寝むれなかった。他の子が気にならないようにカーテンで仕切ったり、部屋を変えたりしましたが、学校でもまだ暗中模索です。家庭と連携し、大人(先生)との関係を深めつつ眠れるよう工夫して、経験を重ねていく必要がある。

学校生活で睡眠障害の様子を感じた事はありません。

宿泊学習の課題

宿泊学習では、就寝時間になっても寝付けず部屋を歩き回ってしまう。夜中に部屋で泣くような大きな声を出す事がある。様子を見てみると、保護者の迎えを待っているような不安な顔つきでいる。対応として、他の生徒とは別の部屋を準備すること。次に、はっきり「お母さんは来ないよ」と伝え、部屋を暗くして教師と一緒に静かにしている。横になる事に抵抗はあるが、徐々に布団に横になり少しの時間は眠るようになった。

特になし(宿泊学習時も快眠)

宿泊学習は低学年の為未実施。  
本児はたまたま睡眠不足が有るくらいで、ご家庭の協力もあり、翌日、翌々日にはリズムが戻りますので、特別に何かをしているわけではありませんが本児に限らず、生活のリズムを整える為に

①日中、楽しく身体を動かす時間を必ず取り入れる。Ex.ブランコ、トランポリン、かけっこ。

②知的にも楽しめる活動も取り入れ、良く声を出したり、笑ったりできるようにする。Ex.紙芝居、好きなおもちゃ

③3食のごはんをしっかり食べ、だいたい決まった時間にトイレに行く。

心身共に心地よく疲れると、眠りも整ってくるように感じます。身体の疲れだけでなく、精神的にも満足して、夜を迎えられたら良いなと思い、学校で普通に出来る事を行っています。

・本校転入時には、睡眠障害を有していたが、保護者との連携を図りながら、本児の実態に応じた適切な運動や活動内容によって改善され、現在は解消されている。

・宿泊学習はアレルギー対応等保護者との連携を図りながら、学年会においても安全確保の徹底と指導法および本児のねらいや課題設定等を共通理解を行った。また、早期から事前学習をおこなったことで、ゆとりを持ち安全に楽しく行事に参加し、課題に取り組む事ができた。

昼間寝かさない様にし、夜間電気を消し、ふとんを整え眠れる環境を提供しているが、眠れないことが多い。付き添いがあると、1時間～3時間程度眠ることが出来る。

学校の日常生活において、睡眠障害が出たことはなかったもので、特に対処法はありませんでした。宿泊学習は修学旅行に置いては、他の生徒の睡眠の妨げにならないように別室でしばらくすごしたりしていました。有る程度起きていると落ちてくるので、あまり刺激を与えないようにしながら、そばにいたり、一緒に添い寝をしていました。なかなか寝付かないは仕方のないことですが、声を出したり部屋の中を動き回ったりしないで、布団の中で過ごせると良いと思います。

学校では活動中、学習中はなるべくねむらせないで通常のリズムに戻せるようにしている。(日中は起きて、夜は眠る)だが、スクールバスの中で寝てしまうので、家庭ではリズムが乱れてしまう。宿泊学習は実施していない。

学校で眠たがって寝てしまうようなことはほとんどなかった。ただ、疲れている時は休憩時間にマットを引いてくつろぐようにさせている。

睡眠障害は今年度は特に見られなかった。

高等部宿泊学習2泊3日では、夜は全く眠らず、教師がずっと添い寝をして過ごしました。昼間の活動を多くし、体を動かすことで、夜少しでも眠るよう工夫しましたが、なかなか眠ることができませんでした。

家庭での健康配慮が行き届いており、学校では特にない。宿泊学習は4年生から実施なので、今後検討していく。

学校生活ではどうしても眠い時は寝かせました(車イスにすわったまま、2つ折りになったまま、寝るのが本人のパターンでした。)宿泊では部屋を暗くして、こちらが無視していると40分ほどで寝ました。

宿泊学習睡眠時にはケラケラ喜んでいましたが、相手にしないで放っておいたら、おとなしくなって眠っていた。エスクレ10滴程

・家庭では特に睡眠障害がないので、学校でも特に対処するということはありません。

・宿泊学習(1泊2日)・・・場所が変わるとなかなか寝ないということを知っていたので、自由時間は外に出て散歩したり、体育館の中を歩くというように身体を動かすことにしました。1:30に寝て、5:30に起きる。教師が起きるとすぐ起きました。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校で学習している間は、刺激を与え眠らないようにする。</li> <li>・宿泊学習では、周囲の友達が刺激になり、眠れないことがあるので、個別の部屋で睡眠する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿泊を伴う学習はまだ行っていない。</li> </ul>
<p>家庭での睡眠のリズムが崩れている時でも、学校で眠ってしまうことはほとんどない。眠そうな時はあるが、授業に参加できないほどではない。これは発作時とも関連するが、居眠りなどで転倒して頭部をぶつけないように環境の整備に努めている。</p> <p>宿泊学習では寝付けずに12時過ぎまで起きていることがあった。しかし、環境への適応能力は高く、家庭から得た情報ではほぼ普段どおりに生活することができた。</p>
<p>宿泊学習では、特に睡眠障害というほどの問題はありませんでした。多少、他の生徒と比べ眠る時間が遅くなる程度でした。家族と離れる事の淋しさが、少しはありましたが、周囲の楽しい雰囲気じきにうち解ける事が出来ました。</p>
<p>生理中が多いのですが、眠気がかなり強くなる時期があります。家庭でもしっかりと睡眠をとっているのに、登校時からずっと眠気が強い状態になってしまいます。眠った後もすっきりした様子は見られず、ぐったりとした状態のままです。そのような時は、そのまま眠らせておきます。だいたい3日間ぐらいでこの状態は治まるので、リズムを戻す対処をした事はありません。</p> <p>今年度の宿泊学習は1回でした。なるべく昼寝をさせないで、夜ねむるように配慮しました。結果として、夜は疲れて果てて早くに眠ってしまいました。(7時頃)、夜中1～4時頃は起きて動いていました。本生徒は体力が無いので、かえって逆効果だったようです。来年度は、昼寝なども取り入れつつ、適切な時間(9時頃)就寝出来る様にしていこうと思っています。</p>
<p>修学旅行などの慣れない環境では、なかなか寝付かれないようで、夜遅くまで起きている。(かなり寝ない日が続くということだったが、2日目は早く寝た)</p> <p>家を恋しがらうようなことはなく、集団行動できた。</p> <p>寒い時期はなかなかおきたがらないようで、登校が遅くなりがちだったが、寝ないためという事はなかった。</p>
<p>長期休業中は生活リズムを崩しやすい。休業後は学校に戻る事で、リズムを戻している。</p>
<p>学校の宿泊学習では静かで少人数の部屋環境の設定を心がけた。</p>
<p>学校においては、活動的に過ごしていますが、外遊び、時間排泄に積極的にとりこんでいます、</p>
<p>9月の修学旅行に向けて、年度はじめからご家庭に協力してもらい、ひとり寝の練習に取り組んでもらった。その結果2泊3日の修学旅行中も、ひとりでベッドで寝付き、体調を崩すことなく旅行を楽しめた。ご家庭での取り組みが素晴らしいかっと思えます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭での健康管理がゆき届いているため、学校では生活リズムの乱れは感じない。連絡帳や電話連絡等で体調把握に努めている。学校で疲れが見えた時など、ゆっくり休める様に(寝ころぶなど)配慮する。(肢体不自由学校の為、教室内に寝ころべるスペースがある。)</li> <li>・今年度の宿泊学習はホテルを利用し、人数の関係で本児プラス教師2名の部屋となった。刺激を少なくしたため、入眠時刻が少し遅いぐらいで過ごせた。日中の活動の量と睡眠時間の部屋を工夫し、計画を立てる</li> </ul>
<p>小学部の時には、宿泊学習(修学旅行を含む)でなかなか眠れないことがあったようですが、中学部に入り、少しずつ改善してきています。今年度の宿泊学習(1泊)では、すぐ横に教員が寝ていることを何度か確認すると、安心した様で、7時間程眠ることができました。</p>